

春

SYUNJUSAI

熊本県立大学・学報

2000・3
VOL.14

秋

■春秋彩とは…

「万葉集」の額田王の春秋を論じた歌の詞書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。
「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

彩

特集 大学院アドミニストレーション研究科に
博士課程を開設







SHINSEIKI eno KIZAHASHI

新世紀への階。

新たな時代へとつながる、未知なる階段。その第一歩は期待と不安、確信と迷妄が交錯する、心許ないものかも知れない。しかし、信じよう。一段一段の積み重ねが、必ずや希望に満ちた新世紀へとつながっていく。行く先を見定め、足下を確かめながら、今は振り返らずに階段を上っていきこう。その先には新しい明日が見えるはずだ。

哲学ある実学

大学の社会的使命は、知の最前線に挑んで知の地平を
 拡張（先端的研究）、その成果を社会に弘め伝承して（高
 等教育）、さらなる螺旋的發展を期するにある。
 ところが、世の中、ゆとりがなくなり世知辛くなつて
 くと、この研究・教育にも即効性が求められるように
 なる。社会にすぐ役立つ研究、就職により、有利な教育が、
 歓迎される。知と用の直結、「実学主義」である。

そうなると、疎外される虚学（？）（「実学」には朱子
 『中庸章句』というれつ、きとした出典があるのに、こち
 らには見当らぬのも意味深長だが）から、反撥の声が当然
 挙がる。学の神髄は「無用の用」に極まる、と。もつと
 も、莊子『人間世』に遡るこの表現には今一つ違う原意
 があるようだが、とまれ、目先の実用から最もかけ離れ
 た知（教養知、純粹理論知）こそが実は大用をなす、と
 喝破する。

しかし、今日、大学がもはや単なる「実学」の府でも
 なければ、芸術のための芸術ならぬ学問のための学問を
 専ら事とする「象牙の塔」（サント・ブーヴ）でもあり
 えないこと、自明の理とするならば、「実学」と「無用
 の用」とは、バッティングどころか唇齒輔車の関係でな
 ければならない。

その意味するところは「哲学ある実学」にはかなるま
 い。「真実の学」「こそ真の「実学」とした郷土の先覚者・
 横井小楠がここに甦る。



熊本県立大学
 学長 手島 孝

1	PROLOGUE 新世紀への階。
2	学長のことば 哲学ある実学
4	特集 大学院アドミニストレーション研究科に 博士課程を開設
8	研究内容の紹介 こんな研究しています。 <small>文学部/村尾 治彦 講師 環境共生学部/坪原 伸二 助教授・山田 俊弘 講師 総合管理学部/真 在甫 助教授</small>
12	本学での研究状況
14	教員の紹介 我が師 <small>文 学 部 小櫃萬津男 先生 環境共生学部 鈴木 公 先生</small>
15	留学 随筆 オランダ人のホスピタリティ (環境共生学部 教授 村上 良知) 体験 21世紀のヨーロッパの激動のなかで (総合管理学部 助教授 森 美智代)
16	学生 VOICE 運命という川の流れに身をまかせて の声 小さなターニング・ポイント あの感動、今も
18	サークル便り サイクリング部 ソフトボール部 写真部 Maple Leaves
19	卒業生からのメッセージ “ Life is half spent before we know what it is.” message for you ~継続は力なり、友は宝なり~ (尾池 美知(熊本県立熊本北高等学校教勤務) 北岡 嶺 富合町役場勤務)
20	CAMPUS-NEWS
24	Incident (1999.7~2000.1) Schedule (2000.2~2000.9)

大学院アドミニストレーション研究科に 博士課程を開設

総合管理学部を基礎として平成10年4月に開設した大学院アドミニストレーション研究科に、平成12年4月、博士課程を設
置します。(博士課程は博士前期課程(従前の修士課程)と、今回新たに設置する博士後期課程から構成されます。)

アドミニストレーション研究科は、公共行政(パブリック・アドミニストレーション)と企業経営(ビジネス・アドミニ
ストレーション)を総合的に教育研究する日本で初めての研究科で、平成12年3月には修士課程の第1期生が修了します。

設置の目的

■アドミニストレーションに関する全国
で最初の研究科であり、アドミニス
トレーションに関する教育・研究の水準
を高度化すること

■国際化・情報化の急速な進行によつて
錯綜する社会問題の解明に当たる学術
研究者及びこれに的確に対処すること
のできる人材の育成を通じ、地域へ貢
献すること

■アドミニストレーションに関する高度
な教育・研究組織の設置は、地域の自治
体・企業・団体にとつても有益であり、
地域社会に対し学問的に貢献すること
■高度の教育・研究を通じた海外の大学
との交流により国際貢献すること

設置の理由

■アドミニストレーションという 新しい学問分野の確立

「アドミニストレーション」という分
野を学際的に教育・研究する大学院は、
我が国では本学アドミニストレーション
研究科のみです。したがって、さらに高
度にアドミニストレーションに対して学
際的にアプローチし、それによりアドミ

ニストレーションに関する新しい学問分
野を確立するために、本研究科に博士後
期課程の設置が必要です。

■アドミニストレーションに関する 教育・研究方法の確立

これまで、行政学(パブリック・アド
ミニストレーション)、経営学(ビジネ
ス・アドミニストレーション)はもちろ
ん政治学、法学、経済学、財政学、会
計学、社会学などが、それぞれの独自の
対象と方法をもつてアドミニストレーシ
ョンの教育・研究に携わっています。こ
うした教育・研究の方法は、アドミニス
トレーションに対する部分的な理論化に
は役立ちますが、その全体像の把握には
必ずしも十分とはいえません。そこで、
本学ではアドミニストレーション研究科
修士課程を開設し、これまでアドミニス
トレーションの教育・研究にかかわつて
きたいくつかの異なる学問領域を、学際
的に協働させ、アドミニストレーション
をさまざまな角度から照らし出すことに
よつて、それをトータルに認識し把握す
べく鋭意、教育・研究を行っているこ
ろです。この方法をさらに進め確立する
ために博士後期課程の設置が必要です。

人材養成の目標

■学術研究者の養成

錯綜する社会問題を解
明するためには、個別領
域の専門知識・思考力だ
けではなく、学際の見地
から多角的・多面的に考
察することができるよう
が必要です。しかし、ア
ドミニストレーション研
究科は我が国には本学以
外には設置されておらず、
アドミニストレーション
に関する研究は途上にあ
るのです。そこでアドミ
ニストレーションに関す
る学術的な研究者の養成
を図る必要があります。

■高度の学際的知識を修得した 専門的職業人の養成

実際の行政活動や企業経営においては、
個別領域の専門知識・思考力だけではな
く、学際の見地から多角的・多面的に考
察することができるよう
が必要です。しかし、ア
ドミニストレーション研
究科は我が国には本学以
外には設置されておらず、
アドミニストレーション
に関する研究は途上にあ
るのです。そこでアドミ
ニストレーションに関す
る学術的な研究者の養成
を図る必要があります。





を養成します。すなわち、自治体や国の行政分野では、

アドミニストレーションに関する高度な専門的知識・能力及び「哲学」的根本思想と経営マインド（効率性・経済性）を併せ持ち、複雑化する行政需要に的確に対応できる人材を養成する必要があります、民間企業分野においては、

アドミニストレーションに関する高度な専門的知識・能力を持ち、企業の公共性や社会的責任を自覚しながら、急激に変化する経営環境に的確に対応できる人材を養成する必要があります。また、実際の行政活動や企業経営に携わる社会人の再教育として、アドミニストレーションに関する高度の専門知識を修得させる必要があります。

教育課程編成の考え方

博士後期課程は、既設の総合管理学部及び大学院アドミニストレーション研究科修士課程（4月以降は博士前期課程）における教育・研究の理念や方法を踏まえ、アドミニストレーション分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養おうとするものです。その教育課程の編成は以下の考え方によって行われます。

■統合概念としてのアドミニストレーションについての教育・研究

パブリック・アドミニストレーションとビジネス・アドミニストレーションを統合する概念としてのアドミニストレーションを教育・研究し、新しいデザイン（学問分野）としてのアドミニストレーション学の確立を目指します。

■重要な社会機能としてのアドミニストレーションについての教育・研究

アドミニストレーションは、すぐれて

現代及びポスト現代の社会にとって最も重要な社会機能です。よって、アドミニストレーションを単なる技能として教育・研究するのではなく、それが由つて来る社会にまで遡って一元的に、または根元的に問います。

■アドミニストレーションについての学際的な教育・研究

アドミニストレーションは非常に複雑な社会現象です。これを教育・研究の対象とする博士後期課程は、これまでアドミニストレーションの教育・研究に関わってきた諸学問の成果を踏まえ、これらを学際的に協働させるものです。

この考え方に基づき、博士後期課程の教育課程は、**社会領域、公共領域、経営領域、規範領域**の4つの領域から編成されます。（表）

大学院

アドミニストレーション研究科

博士後期課程 → 平成12年度開設

標準修業年限 3年 入学定員 4名

学位 博士(アドミニストレーション)

博士前期課程 (従来の「修士課程」 平成10年度開設)

標準修業年限 2年 入学定員 14名

学位 修士(アドミニストレーション)

学部

総合管理学部

(平成6年度開設)

標準修業年限 4年 入学定員 280名

学位 学士(総合管理学)

特色

- **社会人学生のために昼夜開講制を実施します。**
アドミニストレーション研究科の教育・研究は、実学的要素の強い学問であり、実際に行政又は民間企業で活躍する社会人にとって有益な学問です。
○昼夜開講制を実施し、夜 午後6時～9時10分)だけの受講であっても、昼間の学生と同内容の教育が受けられます。
○研究指導についても、社会人学生を担当する指導教授は午後6時以降に行います。
- **社会科学系では、本県初の博士課程です。**

(表) 博士前期課程と博士後期課程の関係図

博士前期課程	博士後期課程
社会領域 アドミニストレーション特殊講義 社会哲学特殊講義 社会学特殊講義 社会思想史特殊講義 経済学説史特殊講義 地域社会論特殊講義	社会領域 アドミニストレーション特別研究 社会哲学特別研究 社会学特別研究 社会思想史特別研究 経済学説史特別研究
公共領域 パブリック・アドミニストレーション特殊講義 自治行政論特殊講義 公共政策論特殊講義 行政組織論特殊講義 社会保障行政論特殊講義 財政学特殊講義 政治学特殊講義 国際関係論特殊講義	公共領域 パブリック・アドミニストレーション特別研究 自治行政特別研究 社会保障行政特別研究 政治学特別研究
経営領域 ビジネス・アドミニストレーション特殊講義 経営組織論特殊講義 経営戦略論特殊講義 企業会計特殊講義 経済理論特殊講義 日本経済論特殊講義 金融論特殊講義	経営領域 ビジネス・アドミニストレーション特別研究 経営組織特別研究 企業会計特別研究 日本経済特別研究
規範領域 法哲学特殊講義 憲法特殊講義 行政法特殊講義 企業法特殊講義 財産法特殊講義 行政監察論特殊講義 企業倫理特殊講義	規範領域 法哲学特別研究 憲法特別研究 行政法特別研究 財産法特別研究
関連科目 情報処理特殊講義 統計学特殊講義	

開設までの経緯

平成10年5月25日	アドミニストレーション研究科博士課程設置準備委員会を設置
平成11年6月25日	文部省にアドミニストレーション研究科博士(後期)課程設置協議書を提出
平成11年12月22日	文部大臣が博士(後期)課程の設置を承認
平成12年2月11日～12日	入学試験
平成12年4月	博士後期課程設置、入学式

アドミニストレーション —新千年紀の

パラダイム—



総合管理学部長
アドミニストレーション研究科長
渡邊 榮文

総合、政策と実行の総合、学際的総合、哲学と実学の総合、学問と実務の総合および理論と技術の総合です。

1998年4月、これらの総合理念をさらに推し進めるために、総合管理学部を基礎とする全国初の大学院であるアドミニストレーション研究科修士課程を開設しました。複数の人間の協働行為としてのアドミニストレーションは非常に複雑で多岐にわたる社会事象ですので、既存の諸学問を四つの研究領域に再編成し、それぞれの領域からアプローチし、アドミニストレーションの全体像の把握を目指しました。この3月に17名の修士(アドミニストレーション)が誕生しました。

ノーベル経済学賞を受賞したアメリカのH・A・サイモンは、二人の人間が力を合わせて大きな石を動かす行為にアドミニストレーション(administration)の原初形態を見出したように、アドミニストレーションは或る目的を実現するための複数の人間の協働行為です。欧米では夙にアドミニストレーションについての教育・研究が行われていたが、わが国では皆無でした。

1994年4月、熊本県立大学は全国に先鞭をつけて「総合管理学部(Faculty of administration)」を開設し、アドミニストレーションに関する教育・研究の礎を据えました。次のような総合の理念を高らかに謳い上げております。すなわち、パブリック・アドミニストレーションとビジネス・アドミニストレーションの

2000年4月、アドミニストレーション研究科に博士課程を開設します。現在、アドミニストレーションという分野を学際的に教育・研究する大学院は、わが国では本学のアドミニストレーション研究科の修士課程のみです。したがって、さらに高度にアドミニストレーションに対して学際的にアプローチし、アドミニストレーションに関する新しいディシプリンを確立するために博士課程の開設が必要であります。

新千年紀は旧千年紀に劣らず、否それ以上に協働システムとしてのアドミニストレーションの重要性を増大させるでありましょう。この協働システムはアドミニストレーションこそが、新千年紀社会の死活の鍵を握っているのです。新しいミレニアム社会のキーワードが、アドミニストレーションとなるゆえんです。イギリスのH・J・ラスキが、その名著『政治学綱要』(A Grammar of Politics, 1925)の中で、新しい世界の出現によって新しい政治学が生まれると述べているように、新千年紀の



幕開けに伴って新しい学問が誕生します。すなわち、博士課程の開設によって、アドミニストレーションというパラダイムで社会現象を説明する新しい学問はアドミニストレーション学が完成の域に達することになります。

21世紀への地歩固め

総合管理学部 教授

秋山 喜文

いよいよ待望の博士課程が開設されることとなった。中・南部九州の大学の中で、文系では初めてのことである（もともと当大学と同時に、熊本学園大学経営学研究科でも博士課程が開設される）。長年博士課程新設を企画しながらも、なお実現にいたらない多くの大学の事例を知るだけに、私達の喜びもひとしおというところである。

当博士課程は、一般学生のほかに社会人・留学生を受け入れる。現在の修士課程も昼夜開講制で社会人への便宜をはかっているが、社会人院生は一般学生以上に真剣に学習・研究に取り組んでおり、今回の博士課程開設は、さらに多様な意味で地域への貢献度を高めることになろう。

アドミニストレーション研究科は、アドミニストレーションを研究対象とする、わが国では初めての研究科である。その目的のために多くの教員が集まっており、すでにいくつかの研究論文も発表されているが、

博士課程の開設を契機として、さらに研究が深められることとなる。

先に環境共生学部の発足により小さいながらも総合大学（University）の体裁を整え、今回また大学院博士課程を開設し、わが熊本県立大学は着々と21世紀へ向かっての地歩を固めている。高等教育の分野でもさまざまな問題が生起しているが、県立の大学としての本来の機能を果たせるよう、さらに努力していきたい。



熊本からプロ選手を求め…

アドミニストレーション研究科1年

田中 孝明

多少強引なたとえかもしれませんが、私は学士（学部生）を高校野球の世界とすると、次のようなたとえができると思います。つまり、修士課程（いまの私の身分）は社会人野球、博士課程はまさにプロ野球の世界といえるのではないのでしょうか。プロ野球の世界では充実した指導者・スタッフが揃っていることが大前提です。いいかえると、この県立大学アドミニストレーション研究科に博士課程が設置されたのも、すばらしい先生たちが各分野でご活躍されているからこそだと思います。

ここ熊本で研究者を育てていこうとする意義は、私なりに2つあると考えます。まず1つが、これからは地方自治の時代と叫ばれる中で、自治体自ら研究者を育て、研究成果を地域の発展のために貢献してもらいたいとすること。もう1つが、熊本という地方都市から全国へ優秀な研究者を送り出し、各方面で活躍してもらおうとすることにあると感じます。

高校・社会人野球の世界とプロ野球の世界では、目で見ると以上に大きな壁があると同様に、学問の世界でも同じことがいえると思います。そうしたプロ選手へのレベルが敷かれた事で、ますます私たち院生の研究も活発になっていく



とともに、ここ県立大学からこれからの熊本あるいは日本を背負って立つ研究者が生まれてくるのも遠くはないのではないのでしょうか。

夢の出来事ではないのですか。

アドミニストレーション研究科1年

濱田 久美



現代社会は、情報ネットワークも高度化し、経済構造も急激に変化しつづけています。この社会では、高度な専門的能力を持ち、さまざまな分野で活躍できる人材が求められています。そんな現実に対応しながら時代を生きていくためには、自らで知識や思考力を高め、視野を広げていく姿勢が重要なのだと行き着きました。

そして、21世紀は大学院の時代。修士課程進学率は、向上しつづけてゆくでしょう。そこには、目的をもった社会人も多く在学しています。例えば、税理士試験一部免除を志す人たち。税理士は、行政と民間との接点に存在して両者の橋渡しの役割を担っています。複雑で流動的な現代社会では、アドミニストレーション能力の必要な分野のひとつにあげられるかもしれません。

さて、私もこんな専門職の知識を深めることを目的としています。そんな中で、博士課程の新設です。『専門職を目指す』ことから、その専門職業人を養成するための、より高度な研究を目指しこれまでと同じステージでステップアップすることも強ちユメとばかりはいきれなくなってきました。この際個人的現実、棚上しておくとして、ユメをユメのままにしておけない可能性がどんどん広がってきているようです。

言語研究の目指すもの

村尾 治彦 講師（言語学）



言語学というギリシャ語やラテン語などの古典語研究や、世界のあまり知られていない様々な言語の分析といった印象があるようですが、現在の言語学的研究の対象とするところは、そのような一般的なイメージとは大分違います。言語研究の中心の一つに文法研究があります。文法というと、学校で習ってきた国文法や古典文法、英文法のようにすでにできあがっている文法規則を理解し、記憶するという比較的退屈で、あまり面白味のないものというイメージ

がありますが、言語学の研究は自分で言語現象を観察し、分析を行い、言語現象の背景に潜む原理や規則に関する仮説をたてていく創造的な分野です。ここで言う原理や規則は単に日本語や英語という個別言語を対象として述べているだけではなく、人間言語全般に関わる一般原理をも指しています。

現在の言語研究は「認知科学」と呼ばれる学問体系の中で行われています。「認知」とは、人間が外界の情報を取り込んで知覚、イメージ形成、推論、記憶、連想等の情報処理過程にかけ、そしてそれを自分の情報や概念とする過程全般を指します。従って認知科学とは、このような人間の認識のメカニズムに関わる領域を研究対象とする神経科学、心理学、言語学、情報科学等の分野にまたがり、脳と心の働きのメカニズムに迫ろうとする学際的な研究分野です。認

知科学内における言語理論においては、言語のシステムと認知の関係をどう考えるかによっていくつ



かの異なる研究方法がありますが、私が現在取り組んでいるのは、認知言語学と呼ばれるパラダイムに依拠した言語現象の研究です。

認知言語学では、言語の意味や構造や様々な言語現象は、知覚処理、イメージ形成、推論、連想等の認知処理過程を介してその基礎を与えられると考えます。従って関連する認知科学の諸分野の知見を取り込みながら、認知過程の側から言語に関わる一般原理を説明していくこととなります。しかし、それと同時に言語現象を観察し、その背後にある規則性や一般原理を生み出す認知能力や認知処理過程を新たに解明していくことも認知言語学研究の目指すところです。このような言語研究のダイナミックさ、おもしろさを是非多くの人に味わってほしいと思っています。

坪原 紳二助教授(都市計画)

私の専門である都市計画の分野では、近年大きく、考え方が変わりつつあります。これは1990年代に入り、特にブラジルでの地球環境サミット以降、地球環境問題が切迫した課題として人々に認識されるようになったことが背景にあります。

例えば以前は、都市における土地利用は、住宅、商業、オフィス、工場と、用途ごとにきちんと分け



た同様な理由から、良好な住宅地⇨低層低密度住宅地、といった考え方も修正を迫られてきています。なるべく都市はコンパクトに高密度につくる。そうすることで、

環境と共生した 都市空間

るとというのが都市計画の大前提でした。そのことよって、機能的で快適な都市空間が実現できると考えられていたわけです。しかし最近では、むしろできるだけ多様な用途を混合すべきだと言われるようになってきています。これは用途混合により、主要な大気汚染源の一つである移動(交通)需要を減らすことができるからです。ま

周辺の自然環境をより多く残すこともできるわけです。熊本の超低床路面電車が、最近マスコミでよく取り上げられています。このように、かつては邪魔者扱いされていた路面電車が注目され、海外の多くの都市で復権を果たしているのも、都市計画における大きな変化の一環と見ることができると

隣接して住宅地が広がっていき(これは悪しき混合と言えましょう)。住民運動の欠如、自治体行政の無計画性といった問題が、環境の荒廃をもたらし

こうした近年の動向に注目しつつ、私は研究テーマとしては、現代の都市形成史を調べています。特にここ数年は、水俣と並び公害の原点とされる、四日市の歴史を調べてきました。1960年代から70年代初頭にかけて、四日市では

「四日市ぜんそく」に代表される激しい公害が起き、かついまだに、巨大なコンピナート群に

た要因として浮かび上がってきています。今後は海外の都市も含めさらに各地の都市形成史を研究・比較し、環境共生型都市空間を実現するための、歴史的教訓を得たいと考えています。



現在の四日市

山田 俊弘 講師（森林生態学）



調査キャンプにて

地球上のあらゆる群系の中でも、
つとも高い地上部現存量を蓄え、
多様性の宝庫と喩えられるほどの

熱帯雨林との 共生のために

生物多様性を持つ熱帯雨林。そんな机上で得た知識を携えて私が初めて熱帯雨林を訪れたのは、大学院の修士課程の時であった。海外学術調査隊の一員として、インドネシア、西カリマンタン州（ボルネオ島）で、植物生態学的調査を行うのが私の仕事だった。

熱帯雨林に入った最初の数日は興奮が止まなかった。教科書に書かれていた、多様性に満ちた巨木達の世界が目の前に広がっているのだ。しかし、そんな興奮が困惑へと変わるのにあまり時間はかからなかった。莫大な現存量を支える巨木達の葉は、遙か上空に展開されており、双眼鏡を使ってもなかなか見えない。葉が見えなければ、生態学で最も重要な情報である植物の種類が分からないのだ。それならば手の届く低木から、と始めてみても莫大な種類が出現してしまい、研究の方向性すら探れない。なにせここは、多様性の宝庫なのだ。悶々たる日々を過ごしたことを記憶している。



フタバガキ科植物の巨木

研究の転機となったのはフネミノキとの出会いである。森林全体を相手に出来ないならば、その構成樹種に焦点を当て、そいつを徹底的に調べてやろうと考えたのだ。結局、このフネミノキと熱帯雨林にはまってしまう、その後は一年の数ヶ月を熱帯のジャングルで過ごすのが習慣になってしまった。この魅力ある熱帯雨林が現在、急速な勢いで減少している。熱帯雨林のおもしろさを引き出し、社会的に存在価値がアピールできるような学術的研究を行うこと。これが、私の研究スタイルだった。しかし、それだけで本当に熱帯雨林の減少を阻止できるだろうか。熱帯雨林の減少の背景には、森林資源をどうしても切り売りせねばならない開発途上国の事情があるはずである。ならば、熱帯雨林を保護しなければならない（熱帯雨林の減少が割りに合わない）根拠を示す科学的データの提供こそが、熱帯雨林減少に対する強力な歯止めとなるのではないだろうか。そして、これこそが現在、熱帯生



フネミノキの現存量調査

態学者に要求されている任務なのではなからうか。環境共生学部の一員として、熱帯雨林との共生を模索し、信頼に足る生態学的データを提供してゆくことが私の使命だと考えている。

組織論者は常に悲愴感に満ちている

黄
在 南 助 教 授 (組 織 論)



能性の世界を広げ、存在基盤の触感を忘れさせまいとする、もう一つの宿命に目覚めなければならぬ。だから、組織論者は常に非愴感に満ちている。

私は、組織論をやるうとしていく。すなわち、組織に溺れることもなく、組織に従属することもなく、組織を見捨てることもなく、懸命に生きようとする現代人の姿を探ろうとしている。このような宿命を背負った人間は常に意思決定に迫られる。選択は、まるで三次元映画の映像のように、目の前に迫ってくる。目を瞑ってしまえばいいだろうけど、自分を通り過ぎ煙のように消えてしまうことへの不安感が現代人を必死にさせる。私はまさにその不安感と戦っている。そして必死になっている現代人の側に立とうとしている。

組織にも魂が宿る。組織に宿る魂は正当性と創造性を糧にしなければならぬ。正当性は組織を信

通常、人間は何らかの組織的なものを通して、自分の可能性を試したり、自分の存在基盤の構築に励んだりする。これは、特に孤独にたえることに慣れてない現代人の宿命であろう。自分への高尚な哲学から味わえる幸福感はそう長く続くものではない。並大抵の精神では到底、幸福感の余韻に耐えられないからである。

組織にも魂が宿る。組織に宿る魂は正当性と創造性を糧にしなければならぬ。正当性は組織を信

頼できるものに、創造性は組織をやる気のあるものに、変えていく。ところが魂の糧は自然に手に入るわけがない。必死に戦っている人間の手を借りる以外、方法はない。正当性と革新性に溢れる組織は、信頼感とやる気のある人間で満ちているのである。

正当性と創造性

が枯れてしまった組織は滅びる。魂を奪われた抜け殻になってしまう。

私は、組織論をやるうとしている。

すなわち、正当性と創造性とは何か、正当性と創造性の源泉はどこにあるのか、正当性と創造性はどのよう

に生成されるのか、その主役は誰なのか、最後に正当性と創造性が枯

れない方法は何であるか、を探ろうとしている。



私がいつになったら組織論をやっているといえるかは、まだわからない。このことが辛いし、自分を駆り立てる。だから非愴感に満ちているのである。

文部省科学研究費補助金 採択実績 (平成11年度)

研究代表者	研究課題	交付決定額(千円)	種別
馬場 良二 (文学部 教授)	ピッチとアンプリチュードが日本語長母音の拍数知覚に果たす機能の解明	700	基盤研究(C)(2)
菅野 道廣 (環境共生学部 教授)	脂肪酸代謝の制御に対するセサミンと共役型多価不飽和脂肪酸の協同効果解析	2,400	基盤研究(C)(1)
大岡 敏昭 (環境共生学部 教授)	日本の城下町都市における近世近代の都市住宅に関する研究	1,300	基盤研究(B)(2)
松添 直隆 (環境共生学部 助教授)	トマトの土壌伝染性病・虫害の回避を目的にしたナス属植物の台木利用に関する研究	2,800	基盤研究(C)(1)
福岡 義之 (環境共生学部 助教授)	エネルギー代謝系の応答動態からみた中高年者のトレーナビリティの評価	1,500	奨励研究(A)
松野 了二 (総合管理学部 教授)	不明瞭な英語の聞き取り学習支援のためのデータベース作成とその検索法に関する研究	1,600	基盤研究(C)(1)

※本学教員が研究代表者となっているものを記載

熊本県立大学後援会からの助成実績 (採択) (平成11年度)

共同自主研究助成 (学生と教員が共同して自主的に行う研究に助成)

氏名	研究課題	助成額(千円)
有菌 幸司 (環境共生学部 教授) 及び学生5名	内分泌攪乱物質の野生生物に与える影響調査	531
久間 清俊 (総合管理学部 教授) 及び学生13名	日本の年金制度の改革について	660
中宮 光隆 (総合管理学部 教授) 及び学生16名	アジアの通貨・経済危機と国連通貨体制	818
井田 貴志 (総合管理学部 助教授) 及び学生10名	観光地域活性化の経済分析	993
高埜 健 (総合管理学部 助教授) 及び学生16名	日米中新時代ーアジア太平洋における共存と努力	730
原田 久 (総合管理学部 講師) 及び学生7名	地方自治体の「格付け」ー地方自治体のISO取得を中心にー	450

教育研究の成果発表助成 (教員が教育研究図書を出版する経費を助成)

氏名	出版題名	助成額(千円)
星乃 治彦 (文学部 助教授)	「Macht Und Burger am 17 Juni 1953」	1,000
久間 清俊 (総合管理学部 教授)	「ドイツ社会思想史研究ー市民社会と高度資本主義」	1,000

国外学術会議出席助成 (教員が国外で開催される学術会議で発表する場合に助成)

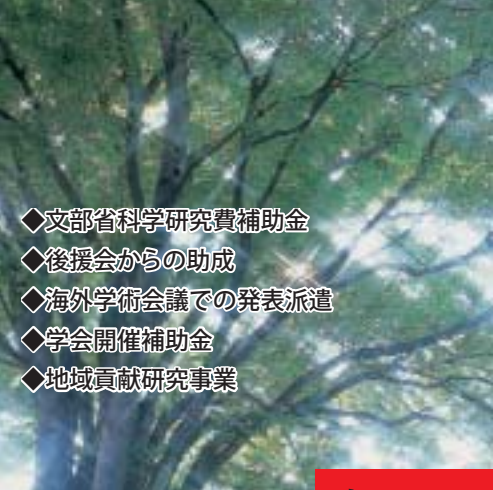
氏名	学術会議名	開催地	発表題目	派遣期間
中村 泰人 (環境共生学部 教授)	Joint meeting of the International Congress of Biometeorology (ICB) and the International Conference on Urban Climatology (IUC) in 1999 (1999年気候学・都市気候学合同国際会議)	オーストラリア (シドニー)	SEASONALITY OF HEAT LOSS CAUSED BY EVAPORATION FROM HUMAN SKIN (皮膚表面からの蒸発による熱損失の季節性)	1999.11.6 - 11.14
有菌 幸司 (環境共生学部 教授)	Society of Environmental Toxicology and Chemistry (環境毒物化学学会)	アメリカ合衆国 (フィラデルフィア)	① Relationship between Inner Coatings of Food Cans Packed only water and Bisphenol-A Migration (水のみを入れた食品缶詰内側コーティング剤とビスフェノールA溶出との関係) ② Effects on Vitellogenin mRNA and Fertility Levels of "C. elegans" by Estrogenic Chemicals (女性ホルモン様化学物質がC. elegansの産卵能力とビテロジェニンmRNAに与える影響)	1999.11.14 - 11.20
弘谷多喜夫 (文学部 教授)	中日教育的回顧と展望ー第3次日本侵華殖民教育研究国際学術研討會(中日教育の回顧と展望ー第3次日本侵華殖民教育史国際シンポジウム)	中華人民共和国 (大連)	戦前日本におけるアジア教育認識の形成ー明治後期教育雑誌記事を中心にー	1999.12.23 - 12.28
藤尾 好則 (総合管理学部 教授)	SITE2000- Information Technology & Teacher Education International Conference (情報技術と教員教育国際学会)	アメリカ合衆国 (サンディエゴ)	Information System Design of Undergraduate Education: Combining Lectures with Practice (学部における情報システム設計: 講義と実習を統合)	2000. 2. 7 - 2.15

海外学術会議での発表派遣 (平成11年度)

氏名	学術会議名	開催地	発表題目	派遣期間
菅野 道廣 (環境共生学部 教授)	AOCS (the American Oil Chemists' Society) Annual Meeting (アメリカ油化学会年会)	アメリカ合衆国 (オランダ)	① Immunoregulatory Function of Sesamin in Rats (ラットにおけるセサミンの免疫機能調節作用) ② Synergism of Nutraceuticals in Lipid Metabolism: Conjugated Linoleic Acid and Other Functional Factors (脂質代謝におけるニュートラシューティカルの相乗作用: 共役リノール酸と他の機能性因子)	1999. 5. 8 - 5.14
松野 了二 (総合管理学部 教授)	ED- MEDIA99	アメリカ合衆国 (シアトル)	A- Mate: A Multimedia Authoring System for Teaching for Teaching ESL (英語教育のためのマルチメディア教材作成支援システム)	1999. 6. 18 - 6.26
税所 幹幸 (総合管理学部 教授)	ED- MEDIA99	アメリカ合衆国 (シアトル)	Issues in the Development of WWLab: A System for Scientific Experiment through the Web (WWLaB (Webを利用した科学実験システム)に適用した実験に関する一検討)	1999. 6. 18 - 6.26
古賀 実 (環境共生学部 教授)	14th Ozone World Congress (第14回国際オゾン学会)	アメリカ合衆国 (ディアボーン)	Practical Application of Cold Plasma Decomposition Processes for Odor Control (コールドプラズマ分解プロセスを応用した悪臭除去の実験)	1999. 8. 21 - 8.28
深津 和彦 (環境共生学部 教授)	6th Pacific Polymer Conference (第6回太平洋ポリマー会議)	中華人民共和国 (広州)	Thermal Degradation of Poly (vinyl Alcohol) / Poly (vinyl Chloride) Blend with Flame Retardants (難燃剤を含むポリビニルアルコール/ポリ塩化ビニルブレンド物の熱分解)	1999.12. 6 - 12.12

熊本県立大学学会開催補助金 採択実績 (平成11年度)

学会名	開催日	内容
日本行政学会総会・研究会	1999.5.22-5.23	(1日目) 共通論題I「公共事業:政治と行政」 分科会A「比較政府間関係論」 分科会B「NPOと行政の新展開」 (2日目) 共通論題II「公共事業:評価と改革」 分科会C「行政と議会ー国際比較分析」 分科会D「都市の管理と政治」
日本栄養・食糧学会 西日本支部大会	1999.11.12-11.13	(1日目) 特別講演会(一般対象) 「食品産業と環境」、「脂溶性ビタミンと油脂の健康学」、 「栄養学のパラドックスとパラダイム」、「生活習慣病と食生活」 (2日目) 一般講演(会員対象) 「ドナリエラパウダーの安全性試験」 「緑茶ポリフェノールによる鉄イオンの不活性化」他13講演



- ◆文部省科学研究費補助金
- ◆後援会からの助成
- ◆海外学術会議での発表派遣
- ◆学会開催補助金
- ◆地域貢献研究事業

本学での研究状況

熊本県地域貢献研究事業 採択実績 (平成11年度)

地域振興支援研究(文化、自然、社会等の領域における地域振興の一助となる研究)

氏名	研究テーマ	交付決定額(千円)
中村 泰人(環境共生学部 教授)	高齢者福祉施設における温熱的生活環境の適正化	1,053
篠原 亮太(環境共生学部 教授)	木酢液の成分分析と用途開発に関する研究	1,117
張 代洲(環境共生学部 講師)	熊本市内および周辺地域における大気エアロゾル粒子の形態と組成分析	993
山田 俊弘(環境共生学部 講師)	熊本県五木村白髪岳天然林における保全生態学的研究	1,292

学術高度化研究(学術の高度化に寄与し、ひいては本県の発展に寄与しうる優れた着想を持つ基礎研究及び特色ある研究を格段に発展させる研究)

氏名	研究テーマ	交付決定額(千円)
田中 宏尚(文学部 教授)	SPI(下田式)性格検査法の改訂	704
三木 悦三(文学部 教授)	言語行為における遂行性の分析	293
砂野 幸稔(文学部 教授)	多言語状況における「国語」問題の研究	535
山田 俊(文学部 助教授)	北宋道教の心性思想研究	1,576
米谷 隆史(文学部 講師)	百科事典型節用集の系統的研究	416
カークバトリック(文学部 講師)	Science, belief and education : Western and Eastern perspectives	300
中島熙八郎(環境共生学部 教授)	過疎農山村の地域資源の存在状況とその活用方途に関する研究	915
白土 英樹(環境共生学部 助教授)	白ワインの特徴的香り成分の検索	1,833
中宮 光隆(総合管理学部 教授)	ハブル経済と市場	432
税所 幹幸(総合管理学部 助教授)	インターネットを利用した科学実験システムの実現	1,137

設置者からの依頼研究(設置者である熊本県の各所属が持つ政策課題等の研究)

氏名	研究テーマ	交付決定額(千円)	依頼元
堤 裕昭(環境共生学部 教授)	不知火海および大野川河口の底生生物相の特徴について	1,334	文化企画課
堤 裕昭(環境共生学部 教授)	緑川河口干潟地域のアサリ資源激減の原因究明とその回復策	1,535	水産研究センター
松添 直隆(環境共生学部 講師)	熊本県特産野菜・熊本長ナス(通称赤ナス)の果実の着色と色素生成について	2,060	農政課(農研センター)
立山 敏男(総合管理学部 教授)	ベンチャー企業の創業プロセスと支援施策	1,682	工業振興課
立山 敏男(総合管理学部 教授)	自治体経営におけるPFI方式の可能性一本県における適用可能性の検討	692	企業局経営企画課
米澤 和彦(総合管理学部 教授)	県立学校職員の管理職研修のあり方について	518	教育庁学校人事課
米澤 和彦(総合管理学部 教授)	熊本県における新たな過疎対策の方向性に関する研究	320	地域政策総室

リカレント教育(職業人の再教育を行い、ひいては地域社会の発展に寄与するもの)

氏名	研究テーマ	交付決定額(千円)	備考(研究内容)
有菌 幸司(環境共生学部 教授)	バイオアッセイを用いた環境評価法の実践	326	県内の環境保健担当者等への環境評価法の実務研修
藤尾 好則(総合管理学部 教授)	パソコンを活用した事務の効率化について	309	市町村職員等へのパソコン、インターネットの実務研修
石橋 敏郎(総合管理学部 教授)	高齢者の自立支援	223	高齢者自立支援の施策検討
原田 久(総合管理学部 講師)	自治体における問題解決のための政策立案及び立法化の手法	217	市町村職員との政策立案手法の検討

その他研究事業の趣旨に添った研究等(出版助成)

氏名	出版題名	交付決定額(千円)
竹原 崇雄(文学部 教授)	三島由紀夫『金閣寺』の世界	588



文学部 教授 小櫃萬津男 (日本文学) (前列中央)

グレーのオールバックのヘアスタイルと眼鏡の奥の優しい瞳が印象的な小櫃先生は、その話し方も雰囲気も穏やかで授業中もほとんどそうなのですが、ごくたまにぼろつと自分の思い出話や大好きな樋口一葉について急に熱っぽく語られることがあるので、目が離せません。しかし、授業で見られる姿は限られているので、今回知られざる先生の生活の一部分を教えてくださいたいのでちよつとだけ報告してみたいと思います。

朝起きるのは十一時と意外に遅く、そのためごはんは二食だそう
です。(だから細いのですね)また、講義のないときはよく散歩をしているそうです。趣味はやはり原稿を書くことで、現在も「日本新劇理念史」の三冊目(四百字詰原稿用紙に一四〇〇枚という大作!)の清書に取りかかり、夜の三時まで執筆をしているそうで、そこには根からの研究者の姿がありました。
知られざる…のつもりでしたが、小櫃先生はやはり期待を裏切らず、我が道を行っていました。それが先生の魅力なのかもしれせん。

『小櫃先生レポート』



文学部 日本語日本文学科4年
有村 佳子



環境共生学部 教授 鈴木 公 (栄養生理学) (前列)

私が初めて鈴木先生とお会いしたのは、高校3年の夏、オープンキャンパスのときでした。教壇の上でニコツと一言、「鈴木ハムです」。あの衝撃的な出会いから4年、まさか先生のもとで卒論を書くことになろうとは…。
『ハムちゃん』の愛称で多くの人に親しまれている鈴木先生。そのお人柄ゆえ、大変人望が厚く、

先生と 私の夢芝居



生活科学部 食物栄養学科4年
秋吉 澄子

昨年の教授昇進祝賀パーティーでも多くの卒業生がお祝いにかけつけて下さいました。好奇心旺盛で、何事も科学的視点から分析されるその姿勢に驚いてしまふことも度々ですが、勉強になることもたくさんあります。
生活科学部棟2Fに見えるカツパの影。そこが栄養生理学研究室です。現在卒論生は4名。毎日、先生のマシンガントーク&鋭いつっこみに耐えながら過ごしています。というは少しオーバーですが、先生のパワーは20代の私たちも圧倒されるほどです。テレビに出れば絶対ブレイクする(笑)と思うのですが、とてもそんなお時間はなさそうです。

オランダ人のホスピタリティ

■環境共生学部 教授 村上 良知 (平成10年9月から平成11年9月までオランダに留学研修)



直線で30kmの大堤防にて



右奥はデルフト市役所で今でも行事に使用。手前は骨董店。

98年秋から、オランダで高齢者の住環境を学んだ。その合間を縫って、いろいろな建物を夢中で見てまわった。

アムスの郊外に、建築家アルド・フォン・アイクの傑作、孤児院がある。学生時代に写真で感動した建物だ。葡萄の粒が集まって房になるように、同じ単位をうまく並べて全体を形づくるクラスタタイプ建築である。今は、複数の民間企業が利用していて、中は見せてくれない。

隣にやはり彼が設計した5階建てのオフィスビルがある。その管理室におそるおそる尋ねてみた。「日本から、隣の建物を見に来た。」「ついでこい！」という。空調機の間を縫って、手摺がない屋上に立った。ぎりぎりまで縁に近づく。落ちたら終わりだ。足がすぐむ。「図面と同じだ！」と、心で叫

随筆



ライン川河畔の古城で

ぶ。夢中でシャッターを切った。写っていることを祈って、降りた。「いい旅を」と管理人のおじさんは言ってくれた。1年前にオランダから山のようにたくさんいただいた「ホスピタリティ」のひとつである。(7千枚以上の写真を撮ったが、シャッターを押したら自分が写る最新のカメラを忘れていったので、自分の写真が殆どない。)



旧孤児院 (設計:アルド・フォン・アイク)

21世紀のヨーロッパの激動のなかで

■総合管理学部 助教授 森 美智代 (平成10年8月から平成11年8月までドイツに留学研修)



フランクフルトの金融街を背景にマイン川河畔で

これまでドイツでの研修はたびたび経験しましたが、1年間という長期研修は、今度がはじめてでした。1年というのは、長いようで短く、今

思いますと、夢のように過ぎ去ったように思います。ちょうどこの1999年という年は、ドイツにとって、経済的にも、政治的にも過渡期だったように感じます。というのは、99年は経済的には、ユーロ単一通貨統合の開始年でもあり、新しい世界の幕開けを予感するようなフランクフルトの金融、銀行街には各国から集まったヨーロッパ人の期待と緊張感が感じられました。ジルベスタ(大晦日)に、大学の助手夫妻から夕食の招待を受けました。その時、助手の友達である証券取引所の関係者から、ユーロ通貨単位の変換の混乱に備え、証券取引所には多くの社員が待機しているという話を聞き、また

銀行は銀行で通貨単位の変換の混乱に銀行員が待機しているという話を聞き、何が起ころかわからないという2000年のY2K並みの緊張感を先にフランクフルトで経験したような気がします。99年になって、1週間は銀行口座引き落としによる振り込みは、順調にいきませんでした。また政治的には、99年は、16年間という長いCDU政党のコール政権から、SPD政党のシュレーダー政権の交代の年でもありました。選挙運動でフランクフルトのレーマー広場に来たコール首相の演説を聴きに行ったのも、今となれば懐かしい思い出です。フランクフルトはリンゴワインの名産地ですが、リンゴワインを飲みながら、市民が政治家の演説を熱心に聞く姿には、ドイツ人らしい演説好きが感じられました。フランクフルトは、世界各国の人達が集まった町で、なかには、母国では戦争している国の人達も互いに生活をしていきます。その意味でも、住民の関係の複雑さをひっくるめていう町でした。日本を一步でると個人主義という言葉が人を支配しているような複雑さを思い起こします。

大学での研究生活では、日本の大学とは違ったシステムを味わうことができました。多くの助手、秘書をもつドイツの大学教授の研究室のなかでの生活は、毎日緊張感がありました。日頃の講義の他に、ときにはブロックゼミナールという1週間の合宿による研修が開かれます。この研修への参加では、教授と助手、ドイツ学生の間で活発な議論が飛び交う情景を思い出し、議論好きドイツ気質がみなぎったゼミナールを経験しました。

仕事の手を休めて、一年間のドイツでの生活を思い起こしながら、もう一度、あのような経験ができればと、あれやこれやと過ぎ去ったつかの間の思い出にふけています。



フランクフルトの金融街

ICE

運命という 川の流れに身をまかせて

入学してはや1年、とても有意義な1年を過ごさせていただきました。私は一般の学生とは少し違って、社会人入学生として県大に入ってきました。高校卒業のとき、目標もなく、ただみんなが行くから私も大学へ行くというの嫌で、いちばん興味があつた服飾関係の専門学校へと進学しましたが、自分には才能がないと1年後にあつさり、辞めてしまいました。いま考えてみると、才能がないという前に、結局本当に好きなことではなかつたから途中で辞めてしまつたんだと思います。それからいろいろなことがあり、運命の糸に操られ、偶然にですけれど、自分にとつて天職だと思える仕事にも出会えました。けれど、出産、子育てと再びその仕事に戻ることは断念せねばなりません。子供を生んで育てることとは素晴らしいことです。自分が成長することです。しかし、女性にとつては人生を左右させられることでもあります。けれども人生どこかで諦めないことには、満足な人生を送ることが出来ないことを学びました。どんな環境におかれても、それを楽しむことが出来れば、人生何時でも薔薇色です。当面の目標は如何に定期試験を、楽しむかです。いくつになつても試験だけは、ちよつと憂鬱ですね。

この場をお借りしまして、諸先生方、いつも授業中うるさくて申し訳ありません。そして英文科の個性豊かなみんな、最高のクラスメートです。2000年も、みんな楽しんでいきましょう！



ルフトハンザドイツ航空の
フライト・アテンダント時代

文学部
英語英米文学科1年

村上 順子



子供と一緒に



県立大学学生である現在（前列左から2番目）

小さなターニング・ポイント



環境共生学部
食・健康環境学専攻1年

平野 将司

食糧危機や遺伝子組み換えなどこれからの環境問題について学びたいと思つていた私は環境共生学部の食・健康環境学を専攻した。そして入学式。そこで私はすぐこの衝撃的な事実を知つた。それは、食・健康環境学40名の中に男は私一人だけということだ。まさか自分一人だけという友人ができるか心になつた私は友人ができるか心配だつた。しかし今私の周りには配だつた。すばらしい友達が多くいる。男一人という事実も何のこともない。大学には多くの出会いがある。その出会いの中、友人を見つけたらいいと思う。別に私は無理も何もしていない、自然と大学では友人が増えている。友達も良い。食・健康環境学の人達も良い。人ばかりなので私もクラスメートとして共に頑張れる。みんな、食・健康環境学専攻のみんな、これからは男一人という経験をクラスにも男一人という経験をクラスにも少ないと思う。逆に考えることもない。逆を考えると一人だつたからこそ、本気でいる。この経験は、私に自然な自分を与えてくれた、小さなターニング・ポイントかもしれない。

V O

あの感動、今も

総合管理学部3年

後藤 太作

私の大学生活における忘れ難い出来事、それは「ハートフルくまもと大会」にサポーターとして参加した事です。1年半の間、手話を習い、障害を持った方の講話、合宿で介護の仕方等を学び、又神奈川県大会へサポーターの代表として視察し、ハートフルくまもと大会で我々のすべき事を学んできました。大会までは選手と仲良くなれるか、サポーターとしての役割を果たすことができるか不安でしたが、実際選手と会って選手5泊6日という期間が私にとつて一生のうちの何年分にあたる思いでした。中でも忘れられないのは選手の一生懸命な姿。皆さんの笑顔や涙を見て、終わった後の「最後の日は選手から「ありがとう」ととてもいい思い出ができました」と言われ、サポーターが多に出来るものではないかと、今この時を大事にしなければいけないという事と、今自分に出来る事が何かあるはずという事をサポーターをきつかけに、これから人の出事を学んでいきたいと思えます。



ハートフルくまもと大会に選手として出場した佃君(総合管理学部2年)と



サポーターのみんなと

サークル便り

サイクリング部

生活科学部

二年 竹下 朋美

サイクリング部では、「自転車を楽しむ」という共通意識の下で、個人が自分に合った活動をしています。毎週土曜日、10km〜20kmほどの軽いサイクリングを楽しみ、夏のツアーや熊本市内の他大学との交流も行っています。また、個人や仲間内でレースに参加する人々もおり、数々の成績を残しています。

最近になり、ホームページを開設し、学内外のより多くの人に情報提供を行っています。
(<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~g0973297/top.htm>)



三大学連盟サイクリング ー合同キャンプー



Summer tour '99 ~山鹿~

ソフトボール部

総合管理学部

二年 平川 達也



ソフトボール部は、月・金の週2回、第2グラウンドで練習しています。以前は女性主体のサークルでしたが、最近では男性部員も増え、本格的に取り組めるようになりました。今年も練習試合を数多くこなし、大会にも積極的に参加するつもりです。ソフトボール部の特長は、先輩・後輩、または男女間の仲がとても良いことです。だから、女性も初心者がほとんどですが楽しく練習に取り組んでいます。また、キャンプ等の行事も盛り沢山です。

ソフトボール部は発展途上のサークルです。自分の手で強くしたい、またはソフトボールに興味があると思う人などお待ちしていますので気軽に遊びに来て下さい。

写真部

総合管理学部

二年 岩井 美希

私達写真部は、毎週金曜日に部会を行い、白亜祭写真展「ジエット☆キッズ」や学食写真展、熊本大学・学園大学・東海大学との四大学合同写真展「光画展」など様々な写真展への作品出品に向け日々頑張っています。

休日には阿蘇など、いろいろな所へ写真を撮ることを目的としたドライブや、公園などへの

ピクニックなどを行っています。また夏季休業中には合宿を行い、皆な沢山の素敵な写真を撮って帰ります。

写真の現像や焼きつけなども自分達で行い数秒単位で写真の印象が大きく変化し、また天候や薬品の状態によっても写真の出来が良くも悪くもなってしまうという大変神経を使う作業ですが、幾度も焼き直しを繰り返して自分のイメージ通りに仕上がったときの達成感や満足感は格別です。これからも素晴らしい作品制作に励みたいと思っていますので興味のある方は、是非遊びに来て下さい。



▲障害児施設へボランティア。夏祭りの様子です。

◀ さくさくの中もなんとサークルメンバー顔がみえないのが残念。



Maple Leaves

(ボランティア活動)

総合管理学部

二年 西平 益絵

ボランティア活動とは、今や奉仕だけにとどまりません。人と人が共に交流を通して楽しむこともそのひとつです。私達は、そんな様々な出会いを大切に活動しています。その内容とは、お祭りなどのイベントを手伝うこと、災害による被害の救済などです。現在は、週に2回の特別養護老人ホームへ、交流などをする

ボランティア活動を行っています。また今年から、手話講習会を予定しています。

皆さんも、楽しいボランティア活動をしてみませんか。きっと良い経験になるはずです。そして、そこから広がる人と人とのつながりは、とてもすてきな思い出になりますよ。





平成10年度卒(文学部英語英米文学科)

尾池 美知

(熊本県立熊本北高等学校勤務)

“ Life is half spent before we know what it is.”

～人生とは何なのかが分かった時には人生の半分は過ぎていく～

高校・短大・就職・退職・留学・大学、そして昨年4月から英語教員と、履歴欄を満杯にってしまう年女の私です。

授業準備に追われまくる日々。どうして時間は止まってくれないのだろう、と頬杖ため息ふがいなき。「具合が悪いので休みます。」何度電話しようと思っただか。英語力を高めたいと高校を選択し、願いは叶ったものの、気力体力、現実は想像以上に厳しいものです。

そんな毎日ですが、生徒たちの顔を見ながら、どんな大人になっていくのだろうと一人想像している。「先生、ならばニヤニヤしよつと。」の声。超マイペースで変わり者と評判の子、とつつきにくくてええカッコの子、赤点すれすれだけどクラスを中心になる子、頑固な子、やさしい子、恋愛真つ最中の子。こんちくしよーと思うこともあるけれど、頑張れよ、一生懸命生きろよ、人生は楽しいよ、と応援せずにはいられないすばらしい個性がひしめいています。

みなさんの夢は何ですか？遠回りの人生も悪くないけれど、自分のやりたいことを早くみつければ、生きる喜びをより多く感謝できる人になるのでは、と私は思います。



卒業生からのメッセージ

message for you

熊本県立大学を卒業して、早、2年が過ぎようとしています。私は現在、富合町役場に勤務し、住民課の国民健康保険係で先輩方に支えられ、多くの住民の方と接しながら、学ぶことの多い社会人生活を送っています。

1年目は、仕事の内容が全く分かっていなかったのですが、むしやりに、何とか乗り切ったという感じでしたが、現在は仕事の仕組みがだいぶ理解できるようになり、少しゆとりを持って取り組めるようになりました。

又、私は、小学校から大学まで柔道の柔道部のおり、現在は母校の中学後や休みの日に、生徒達と一緒に柔道の練習に汗を流しています。私にできることといたたら柔道ぐらいいので、その柔道を通して、地域のために少しでも貢献できたらいいなあと、思いながら帯を締めています。

私が大学生活から地域社会へと行動範囲の広がる中で、皆さんにアドバイスできることといえば、人間関係の大切さ、それと継続は力なり、友は宝なりということ。何か一つ一生続けられることがあつたら最高ではないでしょうか。試練を受けながらも、仲間がいたからこそ多くの喜びもあり、これまで成長できたように思えます。就職活動にあたって、先生方や、たのしい先輩、そして同輩からアドバイスを受け、助けられる中で、自分の目標を定め、頑張れたように思えます。

友人を大切にし、自分のポリシーを持って学園生活を送って下さい。



平成9年度卒(総合管理学部総合管理学科)

北岡 崇

(富合町役場勤務)

～継続は力なり、友は宝なり～

モンタナ留学レポート

平成10年度より開始したアメリカ合衆国・モンタナ州立大学への短期留学生派遣。平成11年度はモンタナ州立大学ボーズマン校に2名の学生を派遣しています。その2名、総合管理学部3年 佐間野有希子さんと文学部4年 瀬古昌子さんから届いた留学生生活に関するレポートを紹介します。

平成11年度モンタナ州立大学ボーズマン校への短期留学生派遣

派遣期間…平成11年8月から1年程度

派遣学生…文学部英語英米文学科4年 瀬古 昌子

総合管理学部総合管理学科3年 佐間野有希子

●佐間野有希子さんのレポート (原文は英語)

ここへ来て4ヶ月が過ぎました。月日がたつのは早いものです。1週間内に今学期も終わり冬休みになります。

学校。ここは本当に大変で、私のほとんどの時間を費やしている



授業中の佐間野有希子さん

す。この学生は日本の学生、少なくとも県立大の学生よりもずっと勉強しています。図書館は研究したりレポートを書いたりする学生でいつもいっぱいです。そして、アメリカ人の学生と同様、この留学生もまた毎日夜中まで勉強しており、3〜4時間しか寝ない時間がある人もいます。最初は、全ての留学生が寝ないで勉強すべきでみんなそうしているのだと思っていました。しかし、あとになってそれは真実ではないとわかりました。今私はほとんど毎晩8〜9時間寝ています。夜寝るために、昼間、昼食時も一生懸命勉強しているのです。ここにはたくさんのお客の学生がいて、勉強するかわりによく一緒に集まっておしゃべりをしていきます。それがあまり睡眠をとれない一因だと思います。十分な休息をとることは、ここで健康を維持するのにとても重要なことです。



モンタナ州立大学ボーズマン校内風景

学生寮。ここにはたくさんのお客の友達があります。Quad(学生寮名)はすてきな寮で、私の知る限りモンタナ州立大学で一番だと思います。母国のことを話したり、カードゲームをしたり、パーティーをしたり、世界中のいろいろな料理を作ったり、時には笑ったり、泣いたり・・・キャンパスで生活することが友達を見つかる一番の方法です。私達は今、クリスマスの

飾り付けの計画をしているところです。クリスマス休暇が待ちきれません！

川や山。ここは、学校のことを考えず時間を過ごし、リフレッシュ出来る場所です。ボーズマンの自然はとても素晴らしいです。川には多くのマスがいてとても美しく、ここでつりをするのが私のお気に入りの時間です。もう山には雪がつもっています。スキーシーズンももうすぐ。スキー場まで30分ぐらいです。モンタナはアウトドアにもってこいの場所です。

友達とホストファミリー。いつも私をハッピーにしてくれます。彼らは私を川に連れて行きつりを教えてくれます。そしていてほしい時にそばにいてくれます。レポートを手伝ってくれたり、授業のプレゼンテーションの前には励ましてくれたりします。また、ホストファミリーのお父さんとお母さんはいつも私の世話をしてくれ、まるで本当の両親のようです。お父さんが狩りに行って大きなエルクを捕まえてきたことがあります。なんとお母さんがその心臓を夕飯に出してくれました。

ここに來れたことにとても感謝しています。でも、時々日本に帰る友達に会いたいと思うこともあります。友達が日本から送ってくる手紙や写真が励みになります。

しかし、とにかく私が今すべきことはここで一生懸命がんばることです。ここでの生活をエンジョイし、できるだけ長くここにいたいと思っています。

(1999・12・8)

●瀬古昌子さんのレポート (原文は英語)

秋学期を振り返ってみると、英語とここでの生活に慣れるのがとても大変でしたが、フライフィッシングやパーティーなど楽しいこともたくさんありました。

勉強についてですが、私はこの秋学期で4つの授業、12単位を取りました。特に言語学の授業は私



Quad (学生寮) 内の瀬古昌子さん

の好きな授業の1つでした。社会学と教育心理学はついていくのが大変でしたが、プレゼンテーションや討論をする機会が多く持て、良い経験となりました。ストレスを感じることもありますが、週末に楽しんでリフレッシュしています。

(中略)

冬休みが終わって今日から春学期が始まります。冬休みには佐間野さんと守江君(総合管理学部3年、現在アメリカに私費留学中)とグラランドキャンニオンに行つて來ました。と



Quad (学生寮)

でも素晴らしい旅行で本当に楽しむことができました。その後、1週間アイダホの友達の家に行き、そこで正月を迎え、100人位の大きなパーティーに出席しました。また、スキーに挑戦したり、友達にすしバーに連れていってもらったり、いろいろなことを経験しました。

今は「ボーリング」「合気道」「日本語授業アシスタント」「児童文学」「ライティング」「コミュニケーション」をとっています。教授の研究室で授業について話したりすることもあります。アメリカ人が日本語を勉強しているのが興味深い日本語の授業など、今学期の授業も楽しみにしています。

(2000.1.13)

祥明大 短期学生研修団 受入に伴う ホストファミリー 登録の募集



本学では、例年のとおり平成12年6月下旬から7月初めにかけて10日間、本学と姉妹提携している韓国・祥明大から短期学生研修団10名程度を受け入れる予定です。研修生はホームステイを通して日本の日常生活を体験し、本学学生との交流を深めます。あなたもホストファミリーになりませんか。昨年度の経験者も祥明大と学生との交流は楽しく貴重な体験になったと喜んでいますが、ホストファミリーを希望する学生は、学生課で登録の手続きをしてください。(詳細は学生課へ)

概要

- ホームステイ時期 平成12年6月下旬から7月初め頃
- ホームステイ期間 4~5泊程度
- ホストファミリー募集数 20家族程度

マスコミ講座の開設



マスコミ講座打合せ会 (H12.1.27)

マスコミ講座講師 中川 幸生氏 (株熊本放送 社長室人事部兼経営企画部長)



マスコミ講座講師 窪田 隆徳氏 (株熊本日日新聞社 編集局読者センター長)

本学では就職支援のための各種講座を実施していますが、平成11年度は、マスコミ業界への就職希望者を対象とした「マスコミ講座」を新たに開設しました。この講座は、マスコミ業界受験に必要な表現力(文章力、発表力)を高めるために、第一線の実務家・専門家による表現力の実技指導を行い、本学からより多くのマスコミ業界への合格者を輩出することを目的としたもので、平成11年10月から平成12年3月まで計15回開催。約20名の学生が参加しました。新聞社、放送局、広告代理店の第一線で活躍する講師により、作文指導や発表指導などの表現力指導を中心としながら、マスコミ業界の実情などについての講話も行われました。

企業見学会

本学では、就職支援事業の一つとして企業見学会を実施しています。これは、3年次の就職活動本格化の前に、企業活動の現場を訪ねて現場の雰囲気を感じ、企業の経営方針・業界内容や業界の現状等の説明を聞くことにより、企業活動の実態を知り、自分にあつた業種・職種・企業探しの参考とすることを目的としています。今年度は、平成12年1月14日に福岡コースと熊本コースの2コースで実施、それぞれ約30名の学生が参加しました。



福岡コース (株博多大丸にて)

平成11年度企業見学会

福岡コース

- 期日 平成12年1月14日(金)
訪問先
- (株)福岡ソフトリサーチパーク
 - 福岡ドーム (ホテルシーホーク)
 - (株)博多大丸
 - 福岡学生職業センター
 - “職業フェア”

熊本コース

- 期日 平成12年1月14日(金)
訪問先
- 金剛(株)
 - (株)熊本放送
 - (株)鶴屋百貨店
 - 肥後銀行 事務センター

公開講演会

平成11年度公開講演会

(本学学生と県民の方々を対象)

今年度の公開講演会は、第1回は肥後琵琶師の橋口桂介氏を、第2回は写真家の皆越ようせい氏を講師に迎え、それぞれ1月21日と1月22日に開催。第1回講師の橋口桂介氏は現在唯一の肥後琵琶師で、熊本の地に古くから伝承されてきた肥後琵琶の演奏を聴くことのできる貴重な機会となりました。また、第2回講師の皆越ようせい氏は熊本県上村出身の土壌生物の写真家で、ミミズなど土の中の生物の美しい写真150枚余りをスライドで紹介、参加した子供達も目を輝かせて見入っていました。

第1回

日時 平成12年1月21日(金)

テーマ 肥後琵琶の世界

(曲目 葛の葉)

講師 橋口桂介氏

(芸名 星沢月若)

第2回

日時 平成12年1月22日(土)

テーマ 落ち葉の下の
小さな動物たち

— 知られざる

土壌生物の素顔 —

講師 皆越ようせい氏



「肥後琵琶の世界」橋口 桂介氏



ハートフルくまもと大会 (H11.11.6-11.7) にて (選手と本学学生)



本学学生が ハートフルくまもと大会の サポーターとして活躍

平成11年11月6日から7日に開催されたハートフルくまもと大会(第35回全国身体障害者スポーツ大会)に、本学学生56名もサポーターとして参加、ボランティアで大会運営の支援をしました。この日のために平成10年5月から1

年余り手話実技その他のサポーター養成講座を受講し、当日は群馬県・東京都・石川県・滋賀県・奈良県・鹿児島県の選手団付きのサポーターとして活躍。大会会場や宿泊先など、出迎えから見送りまで選手を支援し、選手と感動を共有しました。

第35回 白亜祭

本学の学園祭「白亜祭」が、今年度も平成11年11月6日から7日に行われました。第35回となる今回の白亜祭は、「楽」のテーマのもと、恒例のミス白亜コンテストのほか、自治会主催のケント・ギルバート講演会、インディーズブランド・ファッショントークショー、デンジャラスのお笑いライブなどの学生が趣向を凝らした企画が行われ、また、フォーク研ライブ、ESSの英語劇や各種展示など、各サークルが日頃の活動成果を発表。その他数十のバザーもキャンパスに所狭しと並び、地域の家族連れも訪れた熱気あふれるものとなりました。



■セクシュアル・ハラスメント相談員名簿（平成12年2月現在）

所属	氏名・職	研究室・執務室の場所	内線電話
学 生 部	深津 和彦 学生部長	[執務室]管理棟1F 学生部	200
		[研究室]環境共生学部・生活科学部棟4F (4月以降は、環境共生学部新棟(南棟)3F)	480
事 務 局	村上 建二 次長	管理棟2F 事務局長室	222
文 学 部	徳永紀美子 助教授	文学部棟2F	415
	鈴木 元 講師	文学部棟3F	427
環境共生学部	篠原 亮太 教授	環境共生学部・生活科学部棟4F (4月以降は、環境共生学部新棟(南棟)2F)	492
	重松三和子 助教授	第1体育館	245
総合管理学部	中宮 光隆 教授	総合管理学部棟5F	690
	木原佳奈子 助教授	総合管理学部棟5F	677
学生部学生課	田内 康敬 学生課長	管理棟1F 学生部	208

平成11年8月、セクシュアル・ハラスメントの防止及び排除のための措置並びにセクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置に関し、必要な事項を定め、健全で快適な就労又は修学環境をつくることを目的として、この要項が制定されました。

セクシュアル・ハラスメント相談員は次のとおりです。何か困ったことがありましたらどうぞ相談してください。

セクシュアル・ハラスメントの防止に関する要項の制定

セクシュアル・ハラスメントの防止に関する指針

（熊本県立大学セクシュアル・ハラスメントの防止に関する要項第3条関係）

第1 セクシュアル・ハラスメントをしないようにするために教職員及び学生等が認識すべき事項

1 意識の重要性

セクシュアル・ハラスメントをしないようにするためには、教職員及び学生等の一人一人が、次の事項の重要性について十分認識しなければならない。

- (1) お互いの人格を尊重しあうこと。
- (2) お互いが大切な社会的パートナーであるという意識を持つこと。
- (3) 相手を性的な関心の対象としてのみ見る意識をなくすこと。
- (4) 異性を劣った性として見る意識をなくすこと。

2 基本的な心構え

教職員及び学生等は、セクシュアル・ハラスメントに関する次の事項について十分認識しなければならない。

- (1) 性に関する言動に対する受け止め方には個人間や男女間で差があり、セクシュアル・ハラスメントに当たるか否かについては、相手の判断が重要であること。
具体的には、次の点について注意する必要がある。
ア 親しさを表すつもりでの言動であったとしても、本人の意図とは関係なく相手を不快にさせてしまう場合があること。
イ 不快に感じるか否かには個人差があること。
ウ この程度のことは相手も許容するだろうという勝手な憶測をしないこと。
エ 相手との良好な人間関係ができていると勝手な思いこみをしないこと。
- (2) 相手が拒否し、又は嫌がっていることが分かった場合には、同じ言動を決して繰り返さないこと。
- (3) セクシュアル・ハラスメントであるか否かについて、相手からいつも意思表示があるとは限らないこと。
- (4) 大学におけるセクシュアル・ハラスメントにだけ注意するのでは不十分であること。
例えば、大学の人間関係がそのまま持続する歓迎会、セミナーの酒席等の場におけるセクシュアル・ハラスメントについても同様に注意しなければならない。
- (5) 教職員及び学生等間のセクシュアル・ハラスメントにだけ注意するのは不十分であること。
教職員又は学生等がその職務又は学業に従事する際に接する教職員又は学生等以外の者及び委託契約等により大学で勤務する者との関係にも注意しなければならない。

3 セクシュアル・ハラスメントになり得る言動

セクシュアル・ハラスメントになり得る言動として、例えば次のような性的な関心、欲求に基づくものや性別により差別しようとする意識等に基づくものがある。

- (1) 性的な内容の発言関係
ア スリーサイズを聞くなど身体的特徴を話題にすること。
イ 聞くに堪えない卑猥な冗談を言うこと。
ウ 体調が悪そうな女性に「今日は生理日か」、「もう更年期か」などと言うこと。
エ 性的な経験や性生活について質問すること。
オ 性的な噂を立てたり、性的なからかいの対象とすること。
カ 「男のくせに根性がない」、「女には仕事を任せられない」、「女性は職場の花でありさえすればいい」などと発言すること。
キ 「男の子、女の子」、「僕、坊や、お嬢さん」、「おじさん、おばさん」などと人格を認めないような呼び方をすること。
- (2) 性的な行動関係
ア ノードポスター等を職場に貼ること。
イ 雑誌等の卑猥な写真・記事等をわざと見せたり、読んだりすること。
ウ 身体を執拗に眺め回したり、体に不必要に接触すること。
エ 食事やデートにしつこく誘うこと。
オ 不必要な個人指導を行うこと。
カ 出張先で不必要に自室に呼んだり、自宅までの送迎などを強要すること。
キ 性的な内容の電話をかけたり、性的な内容の手紙・Eメールを送ること。
ク 更衣室等をのぞき見すること。
ケ 性的な関係を強要すること。

- コ カラオケでのデュエットを強要すること。
- サ 酒席で、上司、指導教員等の側に座席を指定したり、お酌やチークダンス等を強要すること。
- シ 女性であるということだけで職場でお茶くみ、掃除、私用等を強要すること。
- ス 女性であるというだけの理由で仕事や研究上の実績等を不当に低く評価すること。

4 懲戒処分

セクシュアル・ハラスメントの態様等によっては信用失墜行為、全体の奉仕者にふさわしくない非行又は学生の本分に反する行為等に該当して、懲戒処分に付されることもある。

第2 大学の構成員として就労上又は修学上の良好な環境を確保するために認識すべき事項

就労上又は修学上の環境は、教職員及び学生等の協力の下に形成される部分が大きいことから、セクシュアル・ハラスメントにより就労上又は修学上の環境が害されることを防ぐため、教職員及び学生等は大学の構成員として、次の事項について、十分に配慮しなければならない。

- 1 セクシュアル・ハラスメントについて問題提起をする教職員又は学生等をいよゆるトラブルメーカーと見たり、セクシュアル・ハラスメントに関する問題を当事者間の個人的な問題として片づけたりせず、就労上又は修学上の良好な環境の確保のために皆で取り組むことを日頃から心がけること。
- 2 大学からセクシュアル・ハラスメントに関する問題の加害者や被害者を出さないようにするために、周囲に対する気配りをし、必要な行動をとること。
(1) セクシュアル・ハラスメントが見受けられる場合は、機会をとらえて注意を促すこと。
(2) 被害を受けていることを見聞きした場合には、声をかけて相談に乗ること。
- 3 大学においてセクシュアル・ハラスメントがある場合には、気持ちよく就労や修学ができる環境づくりをするために相談員又は各学部長等に相談するなどの方法をとることをためらわないこと。

第3 セクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合において教職員及び学生等に望まれる事項

1 基本的な心構え

教職員及び学生等は、セクシュアル・ハラスメントを受けた場合にその被害を深刻にしないために、次の事項について認識しておくことが望まれる。

- (1) 一人で我慢しているだけでは、問題は解決しないこと。
- (2) セクシュアル・ハラスメントに対する行動をためらわず、勇気を持って対応すること。

2 セクシュアル・ハラスメントによる被害を受けたと思うときに望まれる対応

教職員及び学生等はセクシュアル・ハラスメントを受けた場合、次のような行動をとるよう努めることが望まれる。

- (1) 嫌なことは相手に対して、拒否や抗議等の明確な意思表示をすること。
- (2) 相談員など信頼できる人に相談すること。
- (3) セクシュアル・ハラスメントが発生した日時、内容等について記録しておくこと。

第4 学生等への指導

教職員は、学生等が対象となるセクシュアル・ハラスメントの防止等のために、学生等が本指針の趣旨を理解するよう努める。その際、学生等の実情に応じた適切な指導を行い、修学上の良好な環境が確保されるよう、適切な配慮を行う。
なお、学生等間のセクシュアル・ハラスメントについてもその防止等に努める。

Incident

(1999.7~2000.1)

月	日	内容
H11 7月	7日	夏休み直前講演会
	8日	就職プレガイダンス
	9日	4年次就職ガイダンス
	11日	夏季休業 (文学部、環境共生学部、生活科学部、文学研究科)(~9月5日)
	12日	学内官庁セミナー(九州財務局、防衛庁)
	15日	公務員ガイダンス
8月	26日	前期試験 (総合管理学部、アドミニストレーション研究科)(~30日)
	30日	ファイナンシャルプランナー(FP)入門講座
	1日	夏季休業 (総合管理学部、アドミニストレーション研究科)(~9月30日)
	2日	大学説明会(高校教員向け)
	2日	総合管理学部インターンシップ(~6日・23~27日)
	5日	JALスカラシッププログラム招請生受入れ(~16日)
9月	8日	オープンキャンパス
	16日	授業公開講座受講者募集(後期)(~31日)
	下旬	モンタナ州立大学ボーズマン校へ短期留学生2名派遣(1年程度)
	25日	企業採用状況調査
	6日	授業再開 (文学部、環境共生学部、生活科学部、文学研究科、全学共通科目)
	11日	入学試験 [大学院アドミニストレーション研究科(修士課程(前期募集))]
10月	16日	公務員試験合格者座談会
	24日	前期試験 (文学部、環境共生学部、生活科学部、文学研究科、全学共通科目)(~30日)
	月内	3年次進路個人面談(~12月)
	月内	企業訪問(~平成12年3月)
	1日	後期授業開始
	1日	外国語教育センター自由講座(後期)開講
	13日	入学試験 [大学院文学研究科(修士課程(前期募集))]
	14日	SPI対策講座
	14日	総合管理学部インターンシップ報告会
	18日	公務員ガイダンス
11月	22日	就職ガイダンス
	23日	日本語教育課程の日本語教育実習 (於韓国・祥明大、中国・広西大)(~11月1日)
	28日	就職特別講演会
	6日	白巫祭(~7日)
	13日	第2回TOEIC IP実施
	15日	不用紙リサイクルシステムの導入
	17日	就職ミニガイダンス
	17日	教員ガイダンス
12月	20日	第1回学内公務員模試(~5月までに8回程度実施)
	22日	九州インカレ冬季競技大会
	24日	3・4年次就職懇談会
	1日	エントリーシート対策講座
	5日	入学試験 [特別選抜(推薦入学、社会人、帰国子女)]
	11日	TOEFL-IP試験
	14日	就職活動マナー講座
	15日	就職ミニガイダンス
H12 1月	16日	就職ミニガイダンス
	22日	アドミニストレーション研究科博士後期課程の設置を文部省が承認
	22日	就職面接対策講座
	24日	冬季休業 (~1月9日)
	11日	授業再開
	14日	企業見学会
	15日	大学入試センター試験 (~16日)
	19日	就職ミニガイダンス
	21日	就職ミニガイダンス
	21日	公開講演会(第1回)
22日	公開講演会(第2回)	
26日	第2回教員ガイダンス	
27日	特別公開講演会	

Schedule

(2000.2~2000.9)

月	日	内容	
H12 2月	1日	後期試験 (~10日)	
	10日	国際交流のつどい	
3月	11日	入学試験 [大学院アドミニストレーション研究科(博士前期課程(後期募集)、博士後期課程)]	
	14日	授業公開講座受講者募集(平成12年度前期)(~29日)	
	14日	就職セミナー週間(~18日) (オリエンテーション、就職直前ガイダンス、第2回SPI模試、OB就職セミナー、学科別ガイダンス、就職活動ビデオセミナー、企業セミナー、集団面接セミナー、公務員セミナー)	
	15日	地域講演会(球磨地区:上村)	
	15日	入学試験 [大学院文学研究科(修士課程(後期募集))]	
	15日	入学試験 [特別選抜(私費外国人留学生)]	
	18日	モンタナ州立大学ボーズマン校への冬期研修団派遣(~3月11日)	
	下旬	韓国・祥明大へ短期留学生派遣(1年程度)	
	21日	学内公務員講座合宿(~23日)	
	25日	入学試験 [一般選抜(前期)]	
4月	3日	求人票送付依頼	
	6日	地域講演会(上益城地区:矢部町)	
	8日	地域講演会(芦北地区:芦北町佐敷地区)	
	中旬	韓国・祥明大からの短期留学生受入れ(~平成13年2月)	
	13日	入学試験 [一般選抜(後期)]	
	15日	卒業式 (於:県立劇場)	
5月	16日	地域講演会(芦北地区:芦北町湯浦地区)	
	月上旬	奨学金、授業料減免説明会	
	月上旬	4年次就職ガイダンス	
	月上旬	公務員試験説明会	
	1日	アドミニストレーション研究科博士課程設置	
	3日	卒業年次健康診断(~5日)	
	6日	入学式 (於:県立劇場)	
	6日	アドミニストレーション研究科博士課程開設式	
	6日	新入生オリエンテーション(~7日)	
	10日	在学生オリエンテーション	
6月	11日	授業開始	
	中旬	授業公開講座開講式	
	中旬	外国語教育センター自由講座(前期)開講	
	5月	中旬	1~3年次健康診断
	下旬	第1回TOEIC IP実施	
	6月	下旬	韓国・祥明大短期学生研修団受入れ(~7月上旬)
7月	7月	夏休み直前講演会	
	11日	夏季休業 (文学部、環境共生学部、生活科学部、文学研究科)(~9月5日)	
	25日	前期試験 (総合管理学部、アドミニストレーション研究科)(~31日)	
	8月	1日	夏季休業 (総合管理学部、アドミニストレーション研究科)(~9月30日)
8月	1日	夏季休業 (総合管理学部、アドミニストレーション研究科)(~9月30日)	
	月上旬	大学説明会(高校教員向け)	
	月上旬	オープンキャンパス	
	下旬	モンタナ州立大学へ短期留学生派遣(1年程度)	
	下旬	授業公開講座受講者募集(後期)	
	9月	6日	授業再開 (文学部、環境共生学部、生活科学部、文学研究科、全学共通科目)
9月	中旬	入学試験 [大学院アドミニストレーション研究科(博士前期課程(前期募集))]	
	中旬	九州地区公立大学学生部長会議	
	25日	前期試験 (文学部、環境共生学部、生活科学部、文学研究科、全学共通科目)(~29日)	



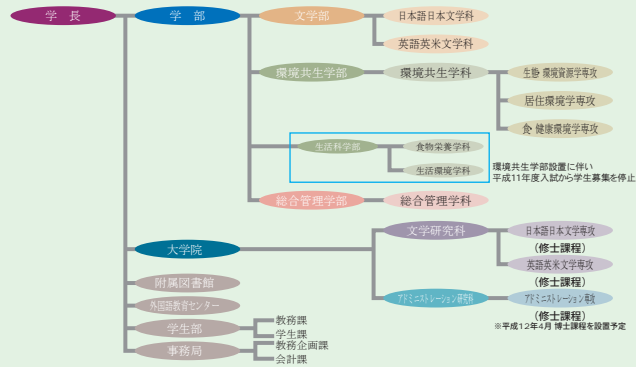
リサイクルボックス

平成11年11月に不用紙リサイクルシステムを本学でも導入。不用紙の分別回収を容易にするために、リサイクルボックスを学内各様に設置しました。

ご意見 感想募集

本誌についてのご意見、ご感想を下記にお寄せください。
みなさまのお声を参考に、今後の学報編集を行っていき
たいと考えておりますのでよろしくお願ひします。
〒862-8502 (住所記載不要)
熊本県立大学事務局総務企画課 「春秋彩」担当
FAX:096-384-6765 E-Mail:gakuho@pu-kumamoto.ac.jp

■組織図



■位置・アクセス



- バスを利用する場合
JR熊本駅よりバスで約10分、交通センター下車、交通センターのC番のりばから、長嶺団地行き、または日赤経由月行きバスで約40分、日赤病院前、または県立大通り下車、すぐ。(駅前への電通りのバス停より、ほぼすべてのバスが交通センターを経由します。)
- タクシーを利用する場合
熊本駅から 所要時間…約40分 料金…約3,000円
水前寺駅から 所要時間…約15分 料金…約1,200円
熊本空港から 所要時間…約30分 料金…約3,000円



熊本県立大学

PREFECTURAL UNIVERSITY OF KUMAMOTO



発行：熊本県立大学
〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL.096(383)2929 (代) FAX.096(384)6765
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

